

作法

社会性とかいうものを有難く学んで以来
世界は開かれていた
いや、これほどに開かれたものとなるとは！
何処までも透明でしかも無意味だ

こいつら愚鈍の者達に
俺は少し謹み深すぎたらしい
たとえ空缶を蹴飛ばしたところで
何も溢れ出てきやしないのだ

かつて俺は己の創造物に囲まれていた
その時の、ああ、何という謎めいた色彩であったことが！
ところが今や外界の全ては明らかとなってしまった
その代わりに閉ざされたものが実は無窮のものだったのだ

憧れとは正しくこうしたものだ
創造は乗数効果をもつが
憧れとは単なる足し算でしかない
しかも新たな対象はマイナス項を含む

何の義理があって俺は口を慎んでいるのか
偶然を怖れるが故か
それとも単なる忘却の故か
ああ、そんな作法など捨ててしまうがいい

(1991.6.22)